

## 鹿児島の昆虫 69

## 集まる昆虫

昆虫担当 中峯 敦子

昆虫が集まると不快に感じる人は多いです。そんな光景を目にした方々から、度々、お問い合わせもいただきます。そこで今回は、集まる昆虫を紹介しましょう。

アカギカメムシ *Cantao ocellatus* (キンカメムシ科) は、国内では九州南部～沖縄に分布しています。体長は 20～25 mm ほどあり、比較的大型のカメムシです。背面の模様が、人の顔のように見えることが話題になることもあります。

さて、先日、アカメガシワの葉裏で、集合する姿が見られました。写真の集団 A では 40 頭前後数えられますが、見えていない個体も含めると 50 頭近くが 1 枚葉の裏にひしめき合っているようです。

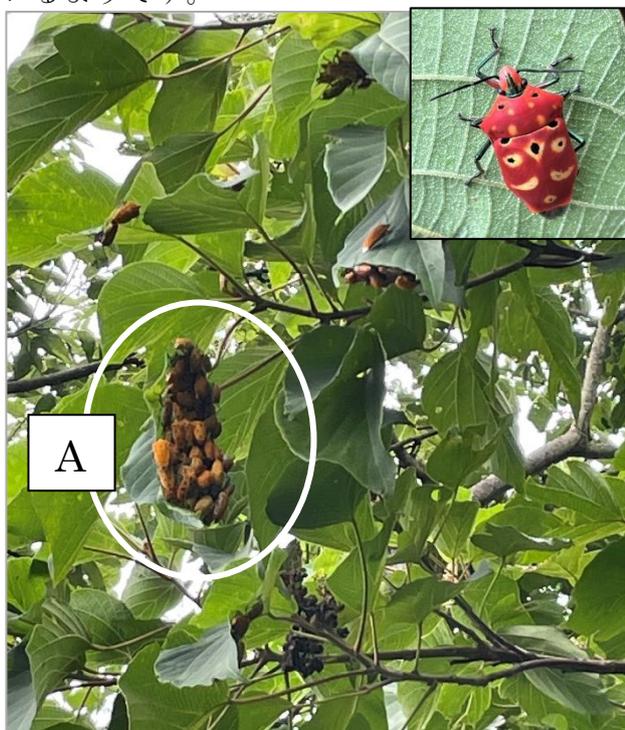


図 1 : アカギカメムシ(右上)と葉裏への集合 (2021 年 8 月 16 日指宿市)

また、キイロシリアゲアリ *Crematogaster osakensis* (アリ科) の雌アリが、店舗のコンクリートの角や隙間に頭を突っ込むように集まっていました。翅が落ちていたので、おそらく前日かそれ以前に巣を飛び立ち、店舗の照明に飛来したものと思われます。同所に大小 6～8 個の集合が観察されました。

この後、複数の雌アリがともに土中や石の下などに新しい巣を創設します。



図 2 : 雌アリ拡大(上)コンクリート壁角への集合 (下) (2021 年 8 月 22 日湧水町)

昆虫に限らず、最近ではヤンバルトサカヤスデ *Chamberlinius hualinensis* (ヤケヤスデ科) が群れてニュースになることもあります。人が脅威に感じる生物の集合。昆虫にはどのようなメリットがあるのでしょうか。

集合すると、外敵からの襲撃があった時、被害を一部の犠牲にとどめることができます。また幼虫の成長が促進されたり、交尾の機会が増えたりするなど、都合の良いことがあるようです。

人にとっては、不可解で不快な昆虫の集合ですが、昆虫にとっては種の存続のために長い進化の過程で獲得した、生きる知恵とも思える行動なのです。